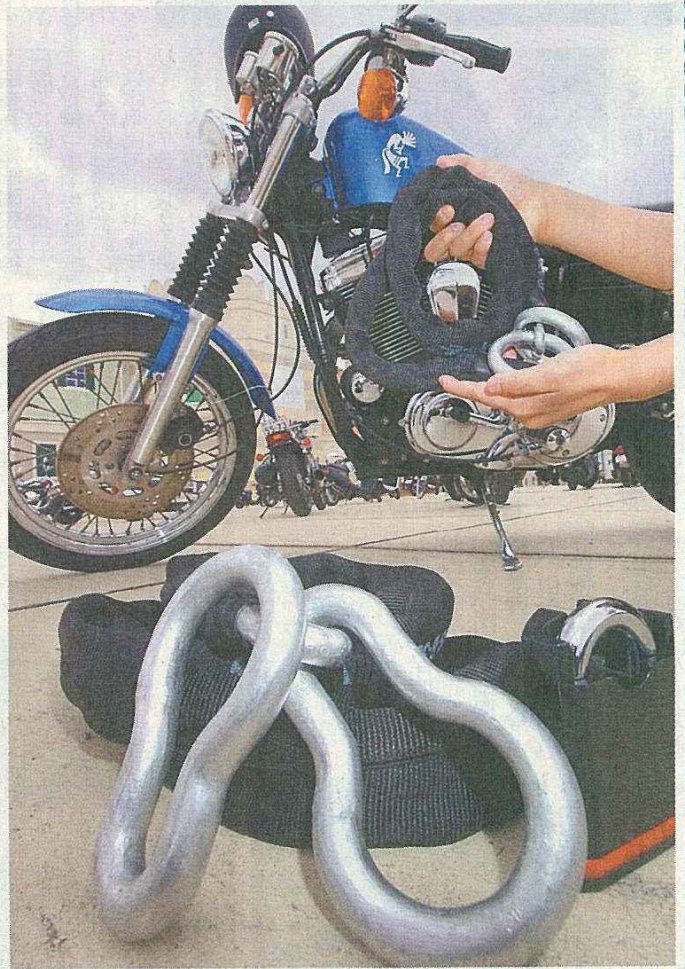


首都圏を中心に国外メーカーの高級バイクが盗まれる事件が深刻化している。警察庁の統計によると、ピークとなった00年の盗難認知件数は25万件超。海外へのルートをもつプロ窃盗団の犯行とみられるが、盗難防止策として取り付けていたチェーンロックはやすやすと切断され、1台数百万円もする愛車が姿を消してしまう。

こんな状況を打ち破ろうと、国産鎖の7割以上を生産している姫路市から、「衣川製鎖工業」(同市飾磨区阿成渡場)の2代目、衣川良介社長(61)が立ち上がった。

同社が開発し01年7月に発売したチェーンロックは、これまで約2600セットを販売したが、報告された盗難被害はわずか1件。その実績がバイク専門雑誌で紹介されたことから話題になり、全国のバイク愛好家の信頼を獲得。現在、月約80セッ

チェーンロック



高級バイクを守る重厚なチェーンロック
—神戸市垂水区で、梅村直承撮影

その結果、チェーンの切断までに少なくとも1時間半を要したことが分かり、被害者からも「盗難防止機能は十分に果たしていた」との感謝の言葉が届いた。しかし、この被害を教訓にして2月、最大30トンの圧力でも切断できない特殊合金鋼製チェーンロックを生み出した。

複数の素材で「超」頑丈

トを受注し、同社売り上げの約2割を占めるまでになった。

開発のきっかけは01年4月、盗難被害に悩んでいた大阪のライダーズ・クラブから受けた依頼だった。同社は船舶と碇をつなぐアンカーチェーンの製作所として1935年に創業。それまでチェーンロックを作った経験はなかったが、「強い鎖」には自信と誇りがある。早速、衣川社長が流通している製品を調べてみると、わずから5トンの圧力でガラスのように砕けてしまう外国産ばかりだった。

蓄積してきた技術により、まず特殊ステンレス鋼製のチェーンが完成。20トンの圧力に耐え、窃盗団が使う携帯用の油圧式カッターでは切断不可能、加えて硫酸腐食も冷凍破壊も通用しないチェーンだった。

しかし、衣川社長は満足しない。「頑丈なチェーンというだけでは『切れない』という要望には応えられない」。研究心には欠けなかった。研究心に火がついた。約3カ月考え抜き、たどり着いたのは「一つの工具だけでは切れない」という発想。油圧式カッターでは歯が立たない化学繊維など、複数の素材を組み合わせて強度を高める構造を生み出したのだ。04年9月、このアイデアで「盗難防止チェーン」の特許を取得した。製造から販売まで手掛けているため、製品の利用状況をすべ

のイタチごっことなろうとも、知恵を絞っていつか降参させる自信はある。83年に父親から会社を引き継ぎ、旺盛な好奇心と熱心な研究姿勢で製鎖技術の改良や業界の活性化に取り組んできた衣川社長は05年、国土交通大臣海事故労者選ばれた。

MADE IN HYOGO

タイトルデザイン・木島杏子さん

第40話

「昔の鍛冶屋は、農家から漁師にまで必要とされる村の知恵袋だった。私は現代のそういう存在でありたい」。衣川社長の仕事の原点だ。

「昔の鍛冶屋は、農家から漁師にまで必要とされる村の知恵袋だった。私は現代のそういう存在でありたい」。衣川社長の仕事の原点だ。

「昔の鍛冶屋は、農家から漁師にまで必要とされる村の知恵袋だった。私は現代のそういう存在でありたい」。衣川社長の仕事の原点だ。

「昔の鍛冶屋は、農家から漁師にまで必要とされる村の知恵袋だった。私は現代のそういう存在でありたい」。衣川社長の仕事の原点だ。

【馬淵晶子】